

公益社団法人全日本病院協会における「認知症対策アクションプラン」

全日本病院協会では、「地域で、人々がその人らしく生き暮らすことを実現し、その人らしく生き暮らせる社会を支える」「持続可能な、誇りをもち続ける成熟社会の未来を支え続ける」社会の実現を願っている。

しかしながら、現在、医療機関ならびに医療関係者における認知症対策が喫緊の課題であることは言うまでもない。すでに本推進会議においては共有されており、ここでは全日本病院協会が協議したアクションプランについて説明する。

地域に密着した医療を行っている施設がほとんどである全日本病院協会の会員施設が直面する認知症関連の課題は、ほぼ共通のものである。以下、課題を列記する。

- 1、 **病院職員の認知症への理解のばらつき**
- 2、 **認知症とせん妄の違いの認識不足**
- 3、 **認知症を伴う患者を一人の地域における「生活者」として捉える観点の不足**
- 4、 **細分化した医療の中で、認知症を伴う患者を総合的に診る医師及び看護師の必要性**
- 5、 **認知症を伴う患者が最も適切な状況に復するための組織的及び地域的な統合性のある取り組みの不足。これはまさに地域包括ケアの考え方と一致する**
- 6、 **病院職員のケアの方法論の習熟不足**
- 7、 **認知症の早期診断と治療の重要性の認識不足**

上記の課題に対応する全日本病院協会のアクションプランを以下に列記する。

1、 病院職員の認知症への理解のばらつき

「病院看護師のための認知症対応力向上研修会」が本協会により行われ、すでに 3,342 名が研修を修了した。さらに、ケアの方法論の習熟のために本協会主催の「病院職員のための認知症研修会（ユマニチュード入門研修）」を、5 年前より実施している。参加総数は 616 名となっている。さらに、継続して本事業を行う。

2、 認知症とせん妄との違いの認識不足

臨床の現場では本件はきわめて重要である。1 における研修会等を実施するとともに、協会として認識の向上を図り、認知症及びせん妄への薬剤投与の適正化を目指す。

3、 認知症を伴う患者を一人の地域における「生活者」として捉える観点の不足

本課題に対するキーパーソンは、病院医療ソーシャルワーカー（MSW）である。本協会では、過去 5 年間に渡り「病院医療ソーシャルワーカー研修会」を実施した。これまでの参加者は MSW 771 名、その他 263 名である。特に、他職種の MSW の仕事への理解を深めるために、管理者（医師、事務、看護）と合同のワークショップも実施した。相互の理解を深めている。本事業も今後継続することを決定している。

4、 細分化した医療の中で、認知症を伴う患者を総合的に診る医師及び看護師の必要性

細分化した高度な医療技術を持つ医師の増加の一方、一人の患者を一人の人間として総合的に診

療する医師の不足は、病院医療の現場で大きな問題となっている。特に認知症においては取り扱いに難渋し、専門医師に依頼する事例が多い。このことが病院医療の現場に硬直化をもたらしており、本協会では、一定のキャリアを有する既存の臓器及び疾患別専門医を対象とした「全日本病院協会総合医育成プログラム」を本年7月より開始し、そのプログラムの中で認知症について学ぶ。

5、認知症を伴う患者が最も適切な状況に復するための組織的及び地域的な統合性のある取り組みの不足

地域包括ケアの考え方と一致する。多職種が有機的に関連し合い一人の患者に対する方向性を具体化していくのが病院医療である。認知症を伴う患者は高齢者で、多疾病併存、かつフレイルを伴うことが多い。院内外における多職種連携が効率的に実施されていることが、結果として患者及び家族の満足度を引き上げる。このため、本協会では多職種連携のための職種間連携教育を積極的に実施することとした。

6、病院職員のケアの方法論の習熟不足

病院職員がケアの方法論の習熟をすることにより、可能な限り薬物治療を減じ、かつ入院治療へと安易に判断することがない仕組みの構築が必要である。については、ケアの方法論の代表的なものとしてユマニチュードを取り上げ研修を行っている。ケア技術の向上こそが認知症を伴う患者自身の不安を取り除き穏やかさを保つことを、職種を超えて学び、すでにくつかの病院においては実践されている。ケア技術の向上により、患者本人のみならず、介護および介護者、そして家族にとって負担が減少することの共有感を深めていく。

7、認知症の早期診断と治療の重要性の認識不足

早期診断と早期治療とともに、状態に応じた適切な薬物療法及び安易な入院判断を避ける。特に、医師に対して認知症治療の研修を行う。

以下、これまで述べたアクションプラン及び評価方法を列記する。

1、病院職員のための認知症研修会（ユマニチュード入門研修） → 継続事業

評価方法：習得する職員数を増やし、モデルとなる施設の選定

2、病院医療ソーシャルワーカー研修会 → 継続事業

評価方法：参加ソーシャルワーカーを増やし、管理職へのソーシャルワーカー業務の認識を高め、管理職参加者を増やす。

3、全日本病院協会総合医育成プログラム → 2018年7月からの新規事業

評価方法：プログラムの中で達成度評価

4、職種間連携の研修会 → 新規事業

評価方法：参加者を増やすとともに、モデル施設の選定

5、認知症を伴う患者に処方される薬剤適正投与の推進、そのための医師、薬剤師研修

→ 新規事業

評価方法：参加施設における薬剤投与の個別評価

以上